

令和 6 年度
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
年度計画（案）（概要）

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

医療・介護などを含めた高齢者を取り巻く情勢（第四期中期目標より）

- ・団塊の世代が後期高齢者となる2025年（令和7年）には高齢化率は23.0%、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年（令和22年）には27.8%となり、都民の約4人に1人が高齢者となると予測されるなど、高齢化が急速に進展
- ・高齢者は、複数疾患やフレイルなどの老年症候群、生活機能障害を有することが多いため、求められる高齢者医療・医学の在り方は、従来の臓器機能の維持・回復を目指した「治す医療」から、生活機能の維持・回復も目指した「治し支える医療」へと変化

第三期中期計画のミッション

- ・三つの重点医療（血管病・高齢者がん・認知症）について、高齢者の特性に配慮した低侵襲な医療の提供
- ・多職種が連携した生活機能の維持・向上を目指した支援を実施し、これらの取組を「高齢者医療モデル」として確立・普及
- ・重点医療や老年症候群に関する研究、高齢者の社会参加の促進やフレイル・認知症などを抱える高齢者の生活を支えるための研究を推進
- ・公的研究機関としての役割を踏まえ、研究内容及び研究成果の公表、行政施策への提言を積極的に実施
- ・経営状況の分析・管理に取り組むとともに、収入確保・費用削減を実施

第四期中期計画のミッション

- ・三つの重点医療に加え、高齢者糖尿病を新たに重点医療として位置付け、**フレイルの視点をより一層重視した早期からの「予防し、治し支える医療」**を「高齢者医療モデル」として確立・普及
- ・新興・再興感染症を踏まえた感染症対策や、首都直下型地震等に備え**災害医療の取組**を強化
- ・**老化のメカニズムや老化制御**などの自然科学的な研究並びに疫学調査や社会調査などによる社会科学的研究を推進
- ・病院と研究所が一体となり、**認知症未来社会創造センター、フレイル予防センター、スマートウォッチ等のデジタル機器を用いた健康づくりに関する研究プロジェクト**の取組を推進
- ・**健康長寿医療研修センター**を通じ、様々な媒体を通じたパブリシティを積極的に推進し、都民への啓発、普及・還元を実施
- ・**DXを積極的に推進し**、研究、経営基盤強化を図り、財務内容の改善を実施

令和6年度計画のポイント

病院・研究所の部門を横断する各種センターの体制整備により、活動、実績の見える化、活性化を促進

病院部門

- ・SCU病床の増、レカネマブの提供体制整備・拡充をはじめとした四大重点医療等の提供
- ・地域医療支援病院として、救急医療、地域連携の強化
- ・大震災など災害医療などに対する夜間院長代理、夜間事務長代理導入による備えの強化

研究部門

- ・病院部門と連携したIRIDE、フレイル予防センターの取組の推進
- ・スマートウォッチ事業について、健康増進アプリの開発などを実施
- ・既に飽和状態にあり今後も一層増加し続ける生体試料を適切に保管・管理するバイオバンクの機能や整備の在り方について検討

経営部門

- ・SCU病床の増などによる病床再編、施設基準の取得等を通じた積極的な収入確保並びにコスト削減
- ・AI問診、RPAのツールなどを活用したDXの推進
- ・電子カルテシステムをはじめとしたセンター全体のシステム最適化を検討
- ・独立した監査室による適切な経営の強化

上記をはじめとして、年度計画の各取組を推進し、第四期中期計画に掲げた法人ミッションを着実に遂行

【高齢者医療の健康長寿を支える医療の提供・普及】

「介護予防・フレイル予防」及び「認知症との共生・予防」に向けて、四大重点医療（血管病、高齢者がん、認知症、高齢者糖尿病）をはじめとした高齢者の特性に配慮した医療の提供を行い、高齢者の健康増進、健康長寿の実現に取り組む。

【血管病医療】

○**SCU病床の増床**により、より一層脳卒中患者などに対して、基礎疾患、他血管疾患の有無を考慮した医療を提供し、受入れ患者数を拡大



【脳血管治療】



【SCU病床】

■令和6年度目標値

ICU稼働率 65%

SCU稼働率 90%

○重症心不全患者に対し、経カテーテル的大動脈弁治療（TAVI）、補助循環用ポンプカテーテル（Impella）による高度な治療を実施

○**不整脈に対する高周波心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）**や**ペースメーカー治療**を実施 【カテーテルアブレーション】

○入院中の心不全患者に対し、**心不全管理手帳**を利用した生活習慣の見直しを行い、必要な患者には外来を含めた栄養指導等につなげ、再入院の防止を図る



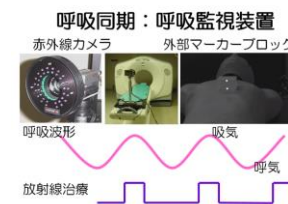
【心不全管理手帳】
（当センター監修）

【高齢者がん医療】

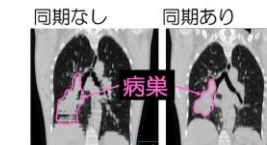
○放射線治療科と各診療科が連携し、乳がん、消化器がん、泌尿器疾患などの対象疾患に対し、**治療・緩和双方からのアプローチで適切な治療を実践**

4次元照射と呼吸同期照射の導入

4次元照射：従来の3次元照射に呼吸性移動などの時間的要素を加味したもの
・呼吸性移動の大きな患者において、有意に肺線量を軽減：肺癌・肺転移など
・左乳癌の術後照射では、心臓：冠動脈の線量低減



呼吸同期の有無と治療範囲



■令和6年度目標値

画像誘導放射線治療（IGRT）150例

強度変調放射線治療（IMRT）20例

定位放射線治療 7例

○高齢者の特性を考慮した**呼吸同期放射線治療の応用**を検討

○各診療科において、認定看護師、認定薬剤師、MSW等と連携するとともに、緩和ケアチームやがん相談支援センターも活用することで、がん患者及びその家族に対し適切な医療を提供

【呼吸同期放射線治療】

【認知症医療】（IRIDEの取組については別ページに記載）

○近隣の医療機関とも連携しながら、**アルツハイマー病疾患修飾薬であるレカネマブの投与を提供出来る体制を整備、拡充**するため、対応する医療機関等への相談窓口の設置、認知症疾患医療センター職員を対象とした研修を実施するとともに、都民への普及啓発のための講演会等を実施

■令和6年度目標値

年間投与症例 40例



【レカネマブ投与開始 会見の様子】

【高齢者糖尿病医療】

○糖尿病看護認定看護師による糖尿病看護外来の充実を図り、療養困難症例に対する治療体制を強化

■令和6年度目標値

糖尿病看護外来年間延べ患者数 1,000人

○**高齢1型糖尿病患者に対する最新のインスリンポンプ治療（SAP、HCL、AHCL）**の利用拡大を図り、全自動で血糖を制御する将来のインスリンポンプ治療（人工膵臓）に備える

○**間歇スキャン式（機械をかざして血糖値を確認）やリアルタイム持続血糖測定器（CGM）**の検査結果を踏まえた良質な血糖コントロールを目指すインスリン治療を行い、適応症例の受入れ増加を図る

○「東京都区西北部糖尿病医療連携推進検討会」基幹病院として、行政、医師会及び歯科医師会等と連携し、地域における糖尿病の重症化予防やフレイル予防の活動を推進

○「いたばし糖尿病多職種ネットワークの会」において、地域の多職種に対してセンターの高齢者糖尿病に関する知見や糖尿病看護外来を紹介することで、地域での糖尿病診療のレベル向上を図る

○ポストコロナに当たり、患者会に関連した活動も広げていくため、糖尿病教室に加え、「ノルディックウォークの会」の定期開催を復活させる



【間歇スキャン式CGM】



【リアルタイムCGM】



【白内障手術装置CENTRION®】

【高齢者の特性に配慮した医療】

○大腿骨近位部骨折に対する骨接合術・人工骨頭置換術、脊椎圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術を積極的に行うとともに、**骨粗鬆症治療を適切に行うことにより二次骨折を予防**

○白内障を主体とする各種眼科疾患に対し、認知症を有する高齢者や様々な全身疾患を合併する患者についてもQOL、QOV(Quality of vision)を考慮し、積極的に手術治療を実施することで、フレイル予防・要介護回避につなげる

○めまい症例における眼球運動を若年者と高齢者とで比較検討することで、高齢者のめまいのさらなる理解につなげられるような臨床研究を推進

○院内で連携し、オーラルフレイル・口腔機能低下症・咀嚼障害・摂食嚥下障害を有する患者の療養支援を実施

○入院中の病棟ケア方法の工夫と指導に努め、離床開始フローチャートを用いた看護サイドでの離床や病棟リハビリが進むよう、早期離床に努める

○チーム医療による入退院支援に着実に取り組むとともに、高齢者のフレイル・認知機能低下に係る健診体制を検討

目標（入院前ADL）の欄下に線を引いてください 入院中のADLが線よりも上に行くようにしましょう 線より上でも下でも無理の無い範囲で歩行や記載されている運動を行いましょう			
入院前のADL	現在の状況	初回評価日 達成日	運動 トイレ歩行の後、後足の膝などにもよい足し運動はいかがでしょうか ただ車椅子に座っているだけはいけません。ちょい足し運動いかがでしょうか
屋外歩行	廊下歩行見守り～自立		   歩行練習 （例：点滴台支持廊下1往復） つま先立ち 10回 立ち座り 10回
屋内歩行 外出は近所のみ	廊下歩行介助 トイレ歩行見守り～自立		() () ※いずれも介助、見守りでも可
トイレ程度の歩行	トイレ歩行介助		※いずれも介助、見守りでも可
屋内車椅子移動 ポータブルトイレ	車椅子でトイレ ポータブルトイレ 座って食事 ※いずれか		車椅子乗車（慣れるまでは30分目安 立ち座り練習5回（介助でも可）  
ベッド上で生活	ベッド上で生活		ポジショニング 関節可動域運動

【離床フローチャート】

【地域における公的医療機関としての取組】

【救急医療】

○急性大動脈スーパーネットワーク、CCUネットワーク、東京都脳卒中救急搬送体制を中心として、ICU/CCU及びSCUを活用しながら、積極的に脳・心血管疾患患者を受入れ

○新規救急部門長による救急組織の再構築、救急隊との連携を密にし、急性消化器疾患、腎疾患、糖尿病緊急症、初発白血病などの救急患者について、**断らない救急を標榜し**積極的に患者受入れ

○病院救急救命士による自院救急車の安全稼働並びに救急外来での活動体制を構築

○ICLSインストラクターの育成等、研修体制を整備し研修を継続的に実施

【地域連携の推進】

○医療機関への訪問や連携会議、研修会等を通じて、センターの連携医制度をPRし、連携医療機関及び連携医との関係をさらに強化

○救急・急性期医療の拠点としての役割を着実に果たすため、働き方改革を踏まえた医師の増員を実施し、救急患者の積極的な受入れ、地域の医療機関への訪問等による紹介・逆紹介の強化に取り組む
(地域医療支援病院指定について、令和6年4月1日指定を目指し都へ申請中)

○医療機関・介護施設等からの紹介患者受入の強化、治療後の紹介元医療機関等への返送、地域の医療機関等への逆紹介を推進

■令和6年度目標値 ・紹介率 75% ・逆紹介率 85%

【災害・感染症等の緊急事態への対応】

○新型コロナウイルス感染症を含む新興・再興感染症の発生・拡大時などの緊急事態において、**感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく東京都との協定に基づき、最大限の協力する**

○災害発生時・感染症拡大時の対応力を強化するため、夜間院長代理に加え、夜間事務長代理を導入し、平時から**区や地域の医療機関との情報共有**を図るとともに、必要な知識や技術等に関する研修や安否確認システムを活用するなど防火・防災訓練等を実施

○大規模災害や新興・再興感染症のパンデミック発生時、患者を効率的に受け入れるため、陰圧化した救急外来を活用

【医師の働き方改革への対応】

○本年4月からの時間外労働規制などの働き方改革に対応するため、看護・ME・事務など他職種へのタスクシフト/シェアを進めるとともに、当直列の統廃合や勤務実態に見合った手当の見直しなど、必要な改革を進める



【自院救急車】

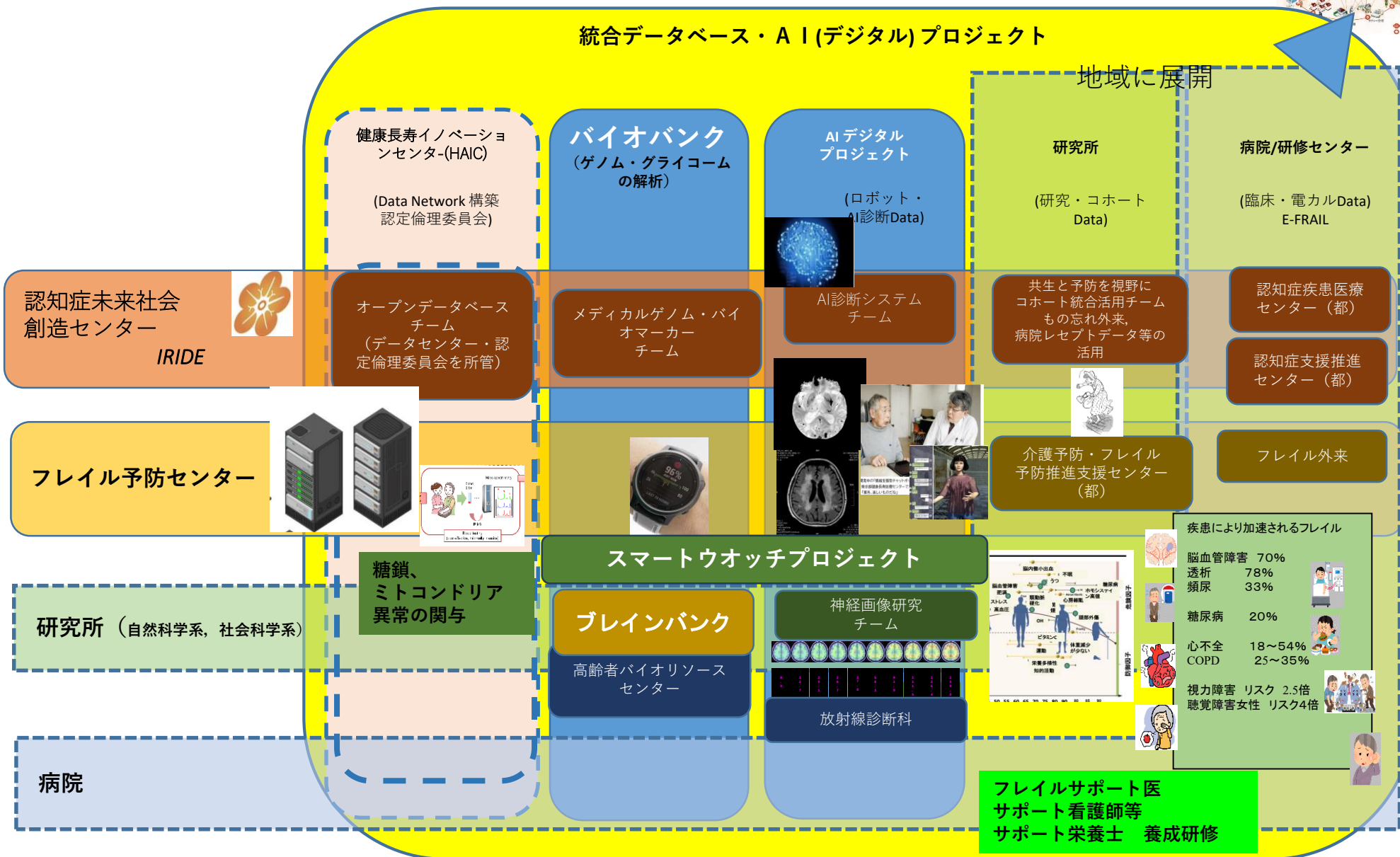


【板橋区医師会連携会議】



【板橋区合同大規模災害訓練の様子】

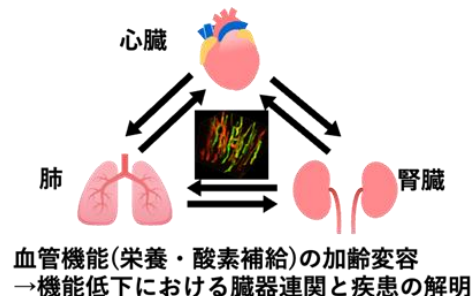
第4期、研究所と病院の有機的活動のためのセンター内センターの体制



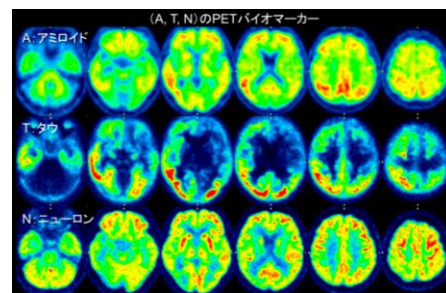
【高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究】

- 血管機能の加齢変化に伴う**臓器連関による恒常機能の解明を進める**(図1参照)
- 健康長寿・認知症・フレイルなどにおける**性ホルモン・ビタミンシグナル並びにミトコンドリア呼吸鎖超複合体の役割を解明し、それらに対する新規診断・治療・予防法開発への応用を進める**
- 運動機能低下などの早期診断バイオマーカー候補糖ペプチドを探索するため、**質量分析装置によるプロテオーム解析及びグライコミクス・グライコプロテオミクス解析を実施する**
- センターの各部門と共同で、**PETバイオマーカーを各種バイオマーカーと横断的かつ縦断的に解析し、認知症の病態解明に努める**(図2参照)
- 高齢者血漿サンプルを解析することによって、認知症バイオマーカー残差地図を拡張することにより、**病態進行をモニターするシステムを作成・提案する**
- 各ライフステージにおける**健康増進や老化制御に適した食事のタンパク質摂取比率を決定する**

大都市モデルへの発展：通いの場等の取組をPDCAサイクルに沿って推進する地域介入研究（北区）



【図1】



【図2】

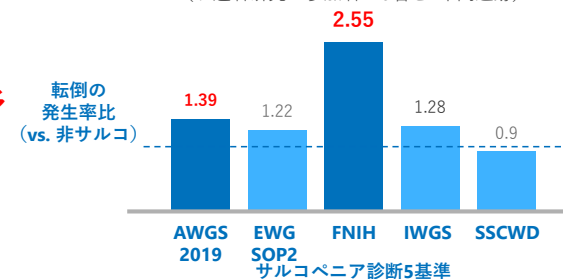
【高齢者の地域での生活を支える研究】

- 農村部における知見を大都市モデルに発展させ、高齢者の健康や生きがい・孤立予防につながる多様な「通いの場」を**PDCAサイクルに沿って自治体と協働で戦略的に進める。その手法の開発と評価を行う。**(図3参照)
- 高齢期における社会参加・社会貢献の促進を目的とした世代間交流・生涯学習型健康増進プログラムを自治体及び関連団体と協働して展開するとともに、**介入効果の機序解明に向けた脳機能等多面的検討を行う**
- 縦断研究データ等を基に、**フレイル・要介護化・認知症の危険因子の解明及び地域における効果的な予防策の開発と評価を進める**
- 認知症フレンドリー社会の実現を目指す地域拠点の活動モデルを示し、認知症高齢者や一般住民を対象に、その効果を多角的に評価する**
- フレイルやサルコペニア、認知機能低下の長期予後（転倒、要介護や認知症要介護、死亡）を明らかにする。**(図4参照)



【図3】

サルコペニア該当者は転倒リスクが高い
(お通者研究の参加者470名を1年間追跡)



【図4】

【老年学研究におけるリーダーシップの発揮】（IRIDE、フレイル予防センター、スマートウォッチ事業の取組は別ページ参照）

○IRIDEでスタートしたTOKYOメディカルバイオバンクにおいて、検体集積及び産学連携での研究開発をさらに進めていく。また、急速に進んでいく国際標準の規格に対応していくため、環境条件・設備条件・情報インフラ・必要人員の洗い出しを行い、**既に飽和状態にあり今後も一層増加し続ける生体試料を適切に保管・管理するバイオバンクの機能や整備の在り方について検討を加速させる。**

○センター内において、引き続きセミナーや研修など自己啓発の機会を提供するとともに、国内外からも研究員や留学生等の受け入れを行い、老年学研究においてリーダーシップを発揮する人材育成を図る

○**国内外の老年学関連学会において引き続き中心的な役割を果たし、老年学研究におけるリーダーシップを発揮**していくとともに、第12回TOBIRA研究交流フォーラムにおいて、当センターの研究成果の積極的な情報発信により、企業や研究機関等との強固なネットワークを構築し、共同・受託研究等への橋渡しや研究成果の実用化に寄与

- 令和6年度目標値
TOBIRA研究発表数（講演、ポスター発表）10件



【板橋区、URとの3者協定締結】



【第11回 研究交流フォーラムの様子】

【研究成果の社会への還元】

○HAICによるサポートの下、医療と研究の一体化というメリットを生かし、受託・共同研究、競争的研究資金など、外部研究資金の積極的な獲得に努めるとともに、**成果の実用化や臨床応用の推進、知的財産の活用を図る**

○研究所が管理・保有する知的財産について、**産学公連携に係るホームページ等の新設により適切に外部発信等を行い**、産学連携での共同研究を推進

- 令和6年度目標値
特許等出願件数 13件

○臨床と研究の両分野が連携できるメリットを生かし、オンデマンド配信も活用しながら「東京都健康長寿医療センター老年学・老年医学公開講座」などを実施する。また、**行政が実施する講演会等への講師派遣、取材及びプレス発表等のパブリシティを通じて、研究成果の積極的な発信を行う**

- 令和6年度目標値
YouTube再生回数 40,000回/月
X (旧:Twitter) フォロワー数 2,200人（年度末）
HPアクセス件数 30万件/月平均
老年学・老年医学公開講座 4回



【第168回老年学・老年医学公開講座の様子】

第168回老年学・老年医学公開講座

新常識!?
脳疾患の最新治療と
リハビリテーション

令和6年
1月26日 金 13:15~16:00

申込不要・入場無料
 当日先着 1,200人 (席手配連絡あり)

第1部 13:30~14:00
脳卒中に対する脳神経外科治療とその進歩
 東京都健康長寿医療センター脳神経外科 部長 (診療科長)

第2部 14:00~14:30
水頭症がもたらす影響
 ～あつとく、ぼんやりする、トイレに間に合わない～
 東京都健康長寿医療センター脳神経外科 専門部長

第3部 14:45~15:15
脳神経疾患のリハビリテーション
 東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科 専門部長

15:30~16:00 **質疑応答**
 司会 東京都健康長寿医療センター 副院長 原田 和昌

小原 健太
 高梨 成彦
 加藤 貴行

会場 板橋区立文化会館 大ホール
 主催 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
 共催 東京都板橋区

03-3964-1141
 ホームページ <http://www.tsmhg.jp>
 東京都健康長寿医療センター 広報課

【第168回老年学・老年医学公開講座のチラシ】

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の成立を受け、認知症施策を総合的かつ計画的に実施することが益々求められていることから、これまでの成果を踏まえつつ、令和7年度以降も見据えた成果の社会実装とビジョンの実現に向けた取組を推進

①TOKYO健康長寿データベースの構築/バイオバンク

・センターの保有する各種データを統合した**オープンに活用可能なDBを構築し、活用を開始**

R6年度の取組

・メディカルバイオバンク研究やDEMCIRC研究等を推進し、品質を確保したデータおよび生体試料の集積を進める。さらに、データベースやバイオバンクを基盤とし、認知症未来社会創造に資する産学連携での研究開発を推進する

②メディカルオミックス/バイオマーカー

・脳などの臓器や血液、髄液などの生体試料の保管及びゲノム解析、**体液バイオマーカーの開発及び共同研究の推進**

R6年度の取組

・統合バイオバンクへのサンプル蓄積を継続するとともに、前向き生体試料の蓄積対象診療科を拡大
・新規バイオマーカーの測定系を開発し、サンプルの測定を開始

③AI診断

・AIを活用した**画像診断システム及び自動会話プログラムの開発**

R6年度の取組

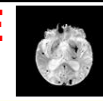
・微小脳出血診断実用システム・Fazekas分類診断のアルゴリズム開発を進め、社会実装のために検証を行う
・開発されたチャットボットのプロトタイプを用いて3施設にて実証研究を進める

④地域コホート

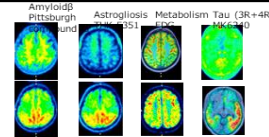
R6年度の取組

・認知機能の変化、要介護認知症をアウトカムとした統合データの作成・分析

IRIDE



AI解析



レカネマブ治験から臨床



都市型ケアファーム
(板橋本町)



チャットボット
臨床研究

Sony

予防

リスクチャート
早期診断のための
血液バイオマーカー



バイオバンク
ゲノム 糖鎖解析 Aβ42/40

①フレイル外来の機能強化とフレイル診療ネットワーク構築

・フレイル外来と全ての診療科が連携して**フレイルの評価や研究を推進**
・**入院患者の電子カルデによるフレイル評価**により退院支援を促進

②フレイルサポート医の育成

・医師会と連携し、**フレイルサポート医研修と多職種ワークショップより地域におけるフレイル対策を担う医師を育成**

R6年度の取組

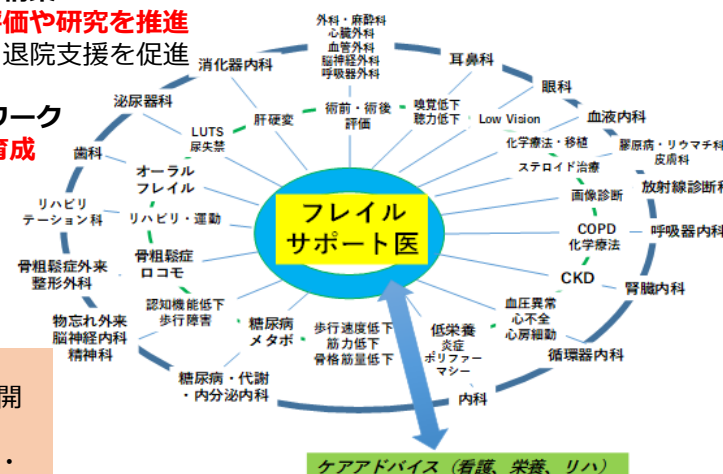
・東京都医師会を始め、他地域の医師会とも連携を取り、**フレイルサポート医研修会**を開催

③フレイル対策を担うコメディカルスタッフの育成

・フレイルに対する**栄養・運動指導、看護の質の向上**

R6年度の取組

・東京都栄養士会、女子栄養大学と連携して研修会を開催し、**フレイルサポート栄養士**の更なる増加を目指す
・**介護予防(主任)運動指導員養成事業**にて介護予防・フレイル予防の人材を育成



R6年度の取組(続き)

フレイルサポートナース研修会を地域に広げて実施し、フレイル・プレフレイルが疑われる患者を早期に見出し、介護予防サロン等へつなげる看護師を養成する。

⑤地域との連携

・自治体や医師会と連携し、**介護予防・フレイル予防の取組を支援**

R6年度の取組

・板橋区・医師会と連携し、**フレイル予防のための保健事業と介護予防事業の一体的実施**ができるようにサポートを実施
・東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターとして、**区市町村・地域包括支援センター、通いの場の職員の研修**を実施

【フレイル診療ネットワーク】

○スマートウォッチ等のデジタル機器を用いた健康づくりに関する研究プロジェクトについて、これまでの研究をさらに深化させ、令和7年度以降の社会実装に向けた取組を推進

《事業内容》

① スマートウォッチに連携したアプリ開発

- ・ウェアラブルデバイスのアプリへの接続
- ・分散型ビックデータデータベースを構築
- ・身体的・認知的・社会的フレイルの機械学習モデルを作成
- ・**ゲーミフィケーションなど、高齢者の行動変容が期待できるアプリを探索**

② スマートウォッチの網羅的検証とデバイス選定

- ・スマートウォッチにより計測する活動関連データを研究用活動量計による各種データと比較
- ・スマートウォッチにより計測する睡眠関連データを脳波計や睡眠マットによるデータと比較

③ ICTに関する調査

- ・高齢者のウェアラブル端末を含むデジタルデバイス保有率・ICTリテラシーの程度を把握するとともに、デジタルデバイドに関連する要因・問題を明らかにする

④ 介護者の睡眠測定・抑うつ予防

- ・活動量計を用いて測定する活動量・睡眠指標と日常の介護実態、負担感、抑うつとの関連を検討し、主観的健康感を予測する測度を検証

⑤ スマートウォッチ情報と健康の関連

- ・地域高齢者を対象に住民健診を実施し、運動機能、認知機能、医学的検査等を測定
- ・**スマートウォッチで計測された活動、睡眠、脈拍等の指標と健診で得られた健康指標の関連を検証**

⑥ 歩行異常の早期発見

- ・アンクルバンド型加速度計とスマートフォン内蔵GPSで測定した日常生活歩行速度の一致度を検討
- ・**日常生活歩行速度とフレイル等健康アウトカムとの関係を分析**

⑦ 低栄養・オーラルフレイル早期発見

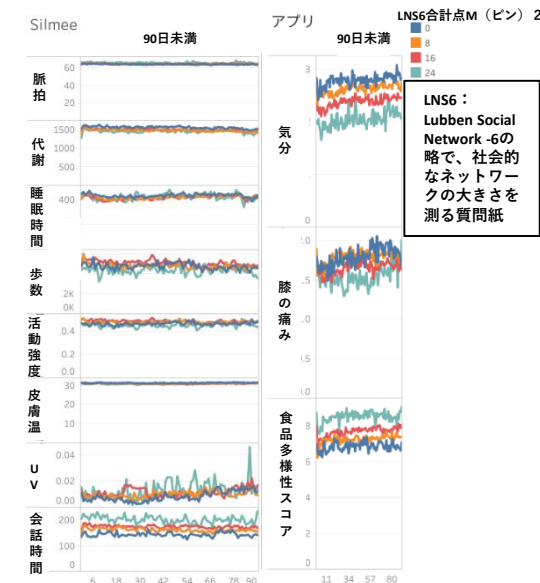
- ・咀嚼力評価機器を用いて、日常的な咀嚼のモニタリングを行い、栄養状態等の関連を検討
- ・**食事画像による食品摂取多様性スコア評価をアプリに反映させるための検証を実施**



⑧ 病院における取組

- ・フレイル外来の患者にスマートウォッチやアンクルバンド型加速度計を装着し、疾患（糖尿病、心房細動、心不全など）を考慮したウェアラブル指標を開発することで、アプリ開発につなげる
- ・**侵襲的手術における合併症を検出し、フレイルの進行を予測するウェアラブル指標を開発**

【事業イメージ】



【ダッシュボード運用によりデータを可視化】

【高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成】

健康長寿医療研修センターが中心となり、医療・介護人材の育成に向け組織的かつ効率的に対応を支援

○学生見学や学生講義等を行い、**研修医の確保・育成を積極的に進める**とともに、他の医療機関や研修関連施設と連携し、**高齢者医療や老年医学の質の高い研修教育を行う**

○高齢者糖尿病医療を推進するため、看護師・栄養士・薬剤師に対し、糖尿病療養指導士の資格獲得、維持を推奨するとともに、受験希望者に対し講習を実施

○特別研究員、連携大学院生、研究生を積極的に受け入れ、老年学・老年医学を担う研究者を育成

○フレイルサポートナース研修、都看護協会と連携し、**フレイルへの早期対応による健康長寿の延伸への貢献**に繋げる

【地方独立行政法人の特性を生かした業務の改善・効率化】

○**令和5年に導入したAI問診について、対象範囲を拡大**することにより、医師、看護師、DC（ドクターズクラーク）の業務負担を軽減し、より専門的な業務に集中できる環境作りを推進。

○**新たに導入した勤怠管理システムを活用**し、各職場の超過勤務時間を可視化させ、縮減等働き方改革に資する取組を推進

【適切な法人運営を行うための体制の強化】

○全職員を対象とした悉皆研修の実施やコンプライアンス推進月間を活用して、センター職員のコンプライアンス（法令遵守）を徹底。コンプライアンス研修については、**受講漏れがないようe-learning等を活用して、対象者全員が受講できる環境を整備**

【財務内容の改善】

○ポストコロナに当たり、**断らない救急、SCU病床拡充をはじめとした病床再編や新たな施設基準の取得等**により積極的に医業収益を確保

○有料個室利用状況を集計・分析し、患者の快適な療養環境を提供するため、個室有効活用を推進

○入退院サポートセンターにて、**入院前に予定生理検査・放射線CT・MRIを実施することにより、外来収益確保をしつつ、入院期間の短縮につなげる**

○医療機器の購入について、センター内の保有状況、稼働目標やランニングコストなどの費用対効果を明確にした上で計画的に更新することで、一層の効果的な運用とコスト削減を図る

○放射線の包括契約について、令和6年度末までの複数年契約となっているため、令和7年度からの契約に向けて、現場職員と協力し内容を精査

○**電子カルテシステム更新に向けて、病院規模に見合ったコストダウン及びセンター全体のシステム最適化を検討するとともに、診療業務効率の更なる向上、経営基盤の強化等を推進**

【法人運営におけるリスク管理の強化】

○**独立した監査室設置による、購入、契約などの妥当性に対する監査、ガバナンスの強化**

○研究所ネットワークについて、更新後5年以上経過し、機器によって保守期限の切れる機器が発生することから、**令和6年度中に全面更新を実施**

○ネットワークセキュリティの情報基盤を強化するため、管理外の不正な機器のネットワーク接続を排除するような**IT機器の「見える化」を実現するソリューションを検討**



【AI問診】



【入退院サポートセンター】